

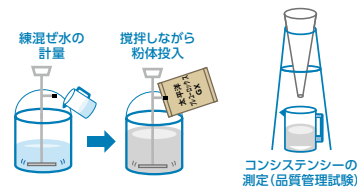
## 使用方法

### 1 下地処理

|              |                                                         |
|--------------|---------------------------------------------------------|
| 目荒らし         | モルタルの接地面については目荒らしを行い、目荒らし等の処置が不可の場合は、レイタンス等の除去を行ってください。 |
| 水湿し又は吸水調整材塗布 | 接地面の乾燥が著しい場合や打設までに時間を要する場合、吸水調整材(エフェクトA)の塗布を推奨します。      |

### 2 練混ぜ

|      |                                                                           |
|------|---------------------------------------------------------------------------|
| 練混ぜ水 | 練混ぜ水は、有機不純物等を含まない清水としてください。                                               |
| 水量   | 練混ぜ水量は、カタログ記載範囲内の水量にて、コンシステンシー(J <sub>14</sub> 漏斗流下時間)規格値範囲内となる水量とってください。 |



外気温度、水温、使用機械、その他現場環境等により、目標とするコンシステンシーを得るための水量は変動します。このため、使用に際しては事前に試し練りを実施し適正な練混ぜ水量の計量を行ってください。規定コンシステンシーの範囲を外れた配合(水量)で使用しないでください。

|       |                                                                                         |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 練上り温度 | 練上り温度は、5～40℃の範囲とってください。                                                                 |
| 暑中対策  | 夏場の高温環境下での施工については、材料を直射日光の当たらない場所に保管し、環境に応じてあらかじめ冷却した練混ぜ水を使用して、練上り温度が40℃以下となるようにしてください。 |
| 寒中対策  | 冬場の低温環境下での施工については、材料を屋内やシート養生により保管し、環境に応じてあらかじめ温めた練混ぜ水を使用して、練上り温度が5℃以上となるようにしてください。     |

練混ぜは機械練りで参考練混ぜ時間(90秒～120秒)を目安に均一に練混ぜてください。アルミニウム製羽根のハンドミキサで練混ぜを行うと、アルミニウム部材が摩耗し、施工後モルタルが異常膨張することがありますので使用しないでください。練混ぜは750回転以上のハンドミキサまたは高速グラウトミキサを使用してください。それ以外のミキサを使用する場合は事前に試験練りを実施の上、使用水量の範囲で所定のコンシステンシーが得られることを確認してください。

品質管理試験 施工時の品質管理試験はコンシステンシー(J<sub>14</sub>漏斗流下時間)測定を行ってください。又、必要に応じて圧縮強度測定用に供試体(φ50mm H:100mm)の採取を行ってください。圧縮強度用供試体を作製する場合、成型後直ちに上面をラップ等で密封し、水分の蒸発を防ぐようにしてください。無収縮グラウト材の圧縮強度供試体の作り方は、別添リーフレット等の資料を参考にしてください。

### 3 打設

|        |                                                                                         |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 型枠(拘束) | 本製品は3面以上の拘束環境下でご使用願います。拘束条件が不十分な箇所に打設した場合、ひび割れ発生の要因となるおそれがあります。                         |
| 仕上げ    | 硬化後、モルタル表面が露出する箇所については、コテ押えをし、表面の仕上げ処理を行ってください。コテ押えが不十分な場合、プラスチックひび割れ等の発生要因となるおそれがあります。 |

### 4 養生

|        |                                                                                                                                                                                     |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 露出面の養生 | 硬化後、モルタル表面が露出する箇所や弱材齢状況下で型枠の早期脱型を必要とする場合は、乾燥によるひび割れが発生する恐れがありますので、湿潤養生を行うか、又は塗膜養生剤(キュアキーパー)の塗布による塗膜養生又は硬化後の塗布型収縮低減剤(クラックセイバー)の塗布を推奨します。但し塗膜養生剤は仕上げ材との相性がありますので、ご使用の際は弊社までお問合わせください。 |
| 暑中対策   | 夏場の高温環境下における施工では、打設箇所に直射日光が当たらないようにシート等にて養生してください。                                                                                                                                  |
| 寒中対策   | 冬場の低温環境下における施工で打設後に5℃以下となる場合、シートや灯光器等を用いて保温養生をしてください。                                                                                                                               |

養生期間 打設完了後、モルタルが完全に硬化するまでは、衝撃、振動等を与えないようにし、露出面がある場合、露出面に風雨等が直接当たらないようにシート等にて養生してください。養生期間は、強度発現時(3日以上)を目安とします。ただし、諸条件により3日以内の早期脱型を必要とする場合は、カタログ記載物性値を参考に判断願います。

#### 保管・廃棄

**保管:** 材料の保管には雨露等がかからず湿気の少ない場所を選び、パレット等を敷き床面から離れた状態でビニールシート等で覆ってください。又、一旦開封したものは、その日のうちに使用してください。

**廃棄:** 本製品を廃棄する場合は、産廃物として許可を得た産廃物処理業者へ依頼してください。海、河川、池、下水道への投棄は絶対にしないでください。洗浄水等の排水は、水質汚濁防止法等の関連諸法令に従って廃棄してください。

**その他:** 本カタログ記載外の用途に使用される場合は、ご使用者側にて調査検討の上、ご不明な点はご相談いただけますようお願いいたします。

**ロットナンバー:** 製品のロットナンバーは製造年月日を表し、[MMDDYY]の場合、MM:製造月(2桁) DD:製造日(2桁) Y:製造年(西暦1桁)となります。例)01233の場合は、2023年1月23日製造となります。

#### 安全上の注意事項



- 本製品は、カタログに記載されている方法でご使用ください。
- 本製品はセメントと同様にアルカリ性を示します。使用の際は、眼・鼻・皮膚及び衣類に触れめよう保護具(ゴム手袋、保護眼鏡、防塵マスク、保護衣等)を着用の上ご使用ください。
- 誤って眼に入った場合は、直ちに清水で充分洗浄した後、医師の治療を受けてください。
- 皮膚に付着すると肌荒れを起こすことがありますので、直ちに水洗いしてください。
- 作業後は手洗い、うがいをしてください。
- 製品の使用にあたってはSDS(安全データシート)を参照願います。

## 太平洋マテリアル株式会社

|        |           |                                 |                  |
|--------|-----------|---------------------------------|------------------|
| 北海道支店  | 〒060-0004 | 北海道札幌市中央区北4条西5-1-3 日本生命北門館ビル    | tel.011-221-5855 |
| 東北支店   | 〒980-0804 | 宮城県仙台市青葉区大町1-1-1 大同生命仙台青葉ビル     | tel.022-221-4511 |
| 北東北営業所 | 〒020-0062 | 岩手県盛岡市長田町2-20 日本ハウスホールディングス盛岡ビル | tel.019-908-2400 |
| 東京支店   | 〒114-0014 | 東京都北区田端6-1-1 田端ASUKAタワー         | tel.03-5832-5242 |
| 関東営業部  | 〒370-0849 | 群馬県高崎市八島町58-1 ウエスト・ワンビル         | tel.027-329-5970 |
| 中部支店   | 〒453-0801 | 愛知県名古屋市中村区太閤3-1-18 名古屋KSビル      | tel.052-452-7141 |
| 北陸営業所  | 〒920-0919 | 石川県金沢市南町5-20 中屋三井ビルディング         | tel.076-234-1670 |
| 静岡営業所  | 〒422-8062 | 静岡県静岡市駿河区稲川2-2-1 セキスイハイムビルディング  | tel.054-685-8333 |
| 関西支店   | 〒541-0042 | 大阪府大阪市中央区今橋2-3-16 JMFビル今橋01     | tel.06-7669-7380 |
| 中国支店   | 〒732-0828 | 広島県広島市南区京橋町1-23 大樹生命広島駅前ビル      | tel.082-261-7191 |
| 四国支店   | 〒760-0050 | 香川県高松市亀井町7-15 セントラルビル           | tel.087-833-5758 |
| 九州支店   | 〒810-0001 | 福岡県福岡市中央区天神4-2-31 第2サンビル        | tel.092-781-5331 |
| 鹿児島営業所 | 〒890-0052 | 鹿児島県鹿児島市上之園町24-2 第12川北ビルBOIS鹿児島 | tel.099-812-7131 |
| 沖縄営業所  | 〒900-0015 | 沖縄県那覇市久茂地2-22-10 那覇第一生命ビルディング   | tel.098-867-9663 |

|                  |
|------------------|
| tel.011-221-5855 |
| tel.022-221-4511 |
| tel.019-908-2400 |
| tel.03-5832-5242 |
| tel.027-329-5970 |
| tel.052-452-7141 |
| tel.076-234-1670 |
| tel.054-685-8333 |
| tel.06-7669-7380 |
| tel.082-261-7191 |
| tel.087-833-5758 |
| tel.092-781-5331 |
| tel.099-812-7131 |
| tel.098-867-9663 |



<https://www.taiheiyo-m.co.jp>

本製品の仕様は予告なしに変更することがありますのでご了承ください。本カタログに記載された事項は、弊社の実験結果に基づいたものでありますが、各種条件により実際の現場結果を確実に保証するものではありません。

2024.2  
第2版

## 太平洋 プレユーロックス GX

# PRE U-LOX GX

## 低炭素型 無収縮モルタル

## Green Transformation

## 太平洋マテリアル株式会社

低炭素型 無収縮モルタル

# PRE U-LOX GX

コンクリート構造物間や鋼製構造物等との接合部や隙間への間詰め充填

橋梁沓座、鉄骨柱下、耐震補強工事など様々な用途で使用可能な汎用タイプ

東・中・西日本高速道路 構造物施工管理要領(無収縮モルタル)品質基準適合\*

\*詳細は技術資料を参照ください。

太平洋プレユーロックスGXシリーズはセメントをはじめとする使用原材料のCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減した**低炭素型の無収縮モルタルシリーズ**です。太平洋プレユーロックスGXは、**低炭素型でありながら、従来の一般的な無収縮モルタルと同等の性能を有しており、無収縮性が必要とされる様々な用途で使用いただけます。**



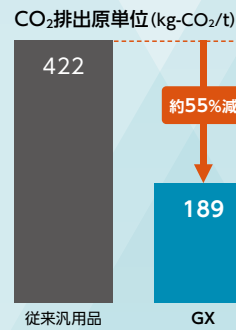
荷姿:18kg/袋

## 低炭素化

太平洋プレユーロックスGXにおける製品あたりのCO<sub>2</sub>排出原単位は189(kg-CO<sub>2</sub>/t)であり、これは従来の一般的な無収縮モルタル(骨材/結合材=1.0)に比べて**約55%の削減**に相当します。

|                        | CO <sub>2</sub> 排出原単位<br>(kg-CO <sub>2</sub> /t) | 1mあたり     |                                          |
|------------------------|--------------------------------------------------|-----------|------------------------------------------|
|                        |                                                  | 製品使用量(kg) | CO <sub>2</sub> 排出量(kg-CO <sub>2</sub> ) |
| 無収縮モルタル汎用品(骨材/結合材=1.0) | 422                                              | 1,875     | 791                                      |
| <b>プレユーロックス GX</b>     | <b>189</b>                                       | 2,001     | 378                                      |

○CO<sub>2</sub>排出量は、Scope1+Scope2+Scope3(カテゴリ1)の合計(当社試算による)



## 安定した品質・性能

プレミックス製品であるため現場では所定の水量で練混ぜるだけで高品質の無収縮モルタルが得られます。

## 優れた施工性・作業環境向上

ハンドミキサーやグラウトミキサーで高流動の無収縮モルタルが得られ、モルタルポンプでの圧送が可能です。また、少量荷姿(18kg/袋)であるため、持ち運びや投入時の取扱いが容易となり作業時の負荷が軽減されます。

## 部材との一体化

ノンブリーディングかつ適量配合された酸化カルシウム系膨張材の作用により、拘束条件下において部材との一体化が図れます。

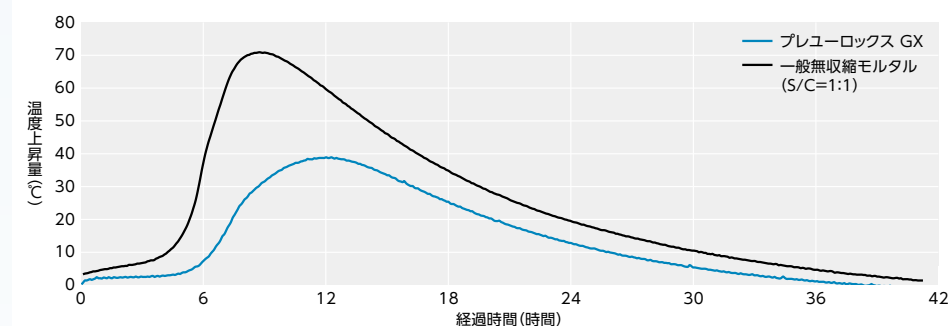
## 高い強度発現性

一般的なコンクリートに比べ初期強度が高く早強性を有するとともに、長期的にも安定した強度発現性が得られます。

## 低発熱性

セメント等の使用量を減らしていることで水和熱が抑制されることから、大断面の施工に適しています。充填間隙は10mm以上が目安です。(配筋状況など施工箇所の条件により異なります)

温度上昇の経時変化



### 標準配合

| 区分                      | 練上り温度の範囲(℃) | コンシステンシー規定値 J <sub>14</sub> 漏斗流下時間(秒) | プレユーロックス GX(kg) | 練混ぜ水量(kg)    | 練上り量(ℓ) |
|-------------------------|-------------|---------------------------------------|-----------------|--------------|---------|
| 単用量(kg/m <sup>3</sup> ) | 5~40        | 8±2                                   | 2,001(112袋)     | 256(234~278) | 1,000   |
| 現場配合(1袋)                |             |                                       | 18              | 2.3(2.1~2.5) | 約9      |

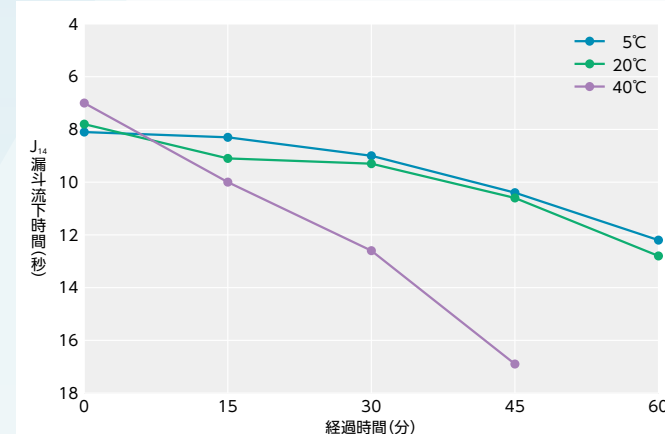
注) ○外気温度、材料温度、練混ぜ水温度により規定とするコンシステンシーを得るための水量が若干変動しますので、事前に試し練りを行い、水量の確認を行ってください。  
○練混ぜは機械練りとし、全材料投入後(90~120秒)程度練混ぜを行ってください。

### 物性例

| プレユーロックス GX<br>18kg/袋                      |                           | 養生温度(℃) |       |       |      |      | 試験方法                          |
|--------------------------------------------|---------------------------|---------|-------|-------|------|------|-------------------------------|
|                                            |                           | 5       | 10    | 20    | 30   | 40   |                               |
| 練混ぜ水量(kg/袋)                                |                           | 2.4     | 2.35  | 2.3   | 2.25 | 2.2  | —                             |
| コンシステンシー                                   | J <sub>14</sub> 漏斗流下時間(秒) | 8.1     | 7.9   | 7.8   | 7.7  | 7.0  | JSCE F 541に準拠                 |
| ブリーディング率(%)                                |                           | 0.0     | 0.0   | 0.0   | 0.0  | 0.0  | JIS A 1123に準拠                 |
| 塩化物量(kg/m <sup>3</sup> )                   |                           | —       | —     | 0.03  | —    | —    | JASS 5T-502に準拠                |
| 膨張収縮率(%)                                   |                           | —       | —     | +0.25 | —    | —    | JSCE F 542に準拠                 |
| 凝結時間(h-min)                                | 始 発                       | 12-15   | 10-15 | 7-15  | 6-00 | 4-35 | JIS A 1147に準拠                 |
|                                            | 終 結                       | 15-10   | 12-10 | 8-15  | 6-35 | 5-15 |                               |
| 圧縮強度(N/mm <sup>2</sup> )                   | 1日                        | 3.4     | 8.4   | 22.0  | 33.7 | 59.3 | JIS A 1108に準拠<br>(φ5×10cm供試体) |
|                                            | 3日                        | 22.3    | 32.2  | 50.6  | 70.1 | 85.0 |                               |
|                                            | 7日                        | 40.8    | 50.5  | 70.0  | 84.3 | 89.9 |                               |
|                                            | 28日                       | 67.5    | 75.2  | 83.5  | 86.3 | 91.2 |                               |
| 社内規格値(材齢:28日)                              |                           | —       | —     | 60以上  | —    | —    |                               |
| 静弾性係数(×10 <sup>4</sup> N/mm <sup>2</sup> ) |                           | —       | —     | 3.46  | —    | —    | JIS A 1149に準拠                 |
| 付着強度(N/mm <sup>2</sup> )                   | 28日                       | —       | —     | 4.9   | —    | —    | NEXCO試験法312に準拠                |
| コンクリートとの付着強度                               | 28日                       | —       | —     | 3.0   | —    | —    | JIS A 1171に準拠                 |

○本表に記載の数値については、実験に基づく物性値です。○養生温度は、環境温度、練混ぜ水の水温、材料の温度を全て同温度条件にしています。

コンシステンシーの経時変化



凍結融解抵抗性

